第６章　授業実践事例（教育力向上指導員）

１　国語「国語総合」（古典分野）
多角的に古典を学ぶ　～知識習得、活動、読解の融合型授業をめざして～

１　作業を積極的に取り入れて、手と頭を使って古典を学ぶ。

（１）単元名　「徒然草」高名の木登り

（２）目標

①　古典教材の代表である「徒然草」の学習を通して、古典への親しみを深め、主体的に学ぶ姿勢を作る。（関心・意欲・態度）

②　自然、人事などの描写を通して古人の感覚・思想に触れる。現代に生きる自分たちとの共通点を考える。（「Ｃ読むこと」の(1)のウ、エ、オ）

③　言葉を分類したり、条件に応じて抜き出したりする作業を通して、品詞について具体的に知る。文語文法に関する、知識を深める。（「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の(1)アの(ｲ)、および(1)イの(ｱ)、(ｲ)）

（３）指導計画等

Ａ　実施段階、準備などについて

○　一学期の導入期の内容である。ひととおり動詞学習を終えてからの確認学習として行うが、動詞学習の初期にも応用が可能である。

○　教材として「高名の木登り」を取り上げているが、「国語総合」の教科書に取り上げられている他の章段を用いてもよい。また、「徒然草」以外の教材でもよい。

○　教科書、古語辞典、文語文法書、国語資料集を用意する。他に指導者が本文に出てくる動詞の活用を表にまとめたもの、用言の箇所を空欄にした口語訳のプリントなどを用意する。

Ｂ　単元の具体的な評価規準

① 関心・意欲・態度	a　これまで学んできた動詞(用言)に関する知識を生かして作業や説明に取り組もうとしているか。 b　指示された作業内容や予習に主体的に取り組んでいるか。 c　筆者の主張と今の自分の生活や在り方との共通点を考えようとしているか。
② 読む能力	a　動詞(用言)の意味を正確につかみ、適切な口語訳を完成させることができているか。 b　筆者の主張が正しく読み取れているか。 c　筆者の主張と今の自分の生活や在り方との共通点を考えながら読んでいるか。
③ 知識・理解	a　これまでに学んできた動詞(用言)に関する知識が身についているか。 b　動詞(用言)だけでなく他の語との接続関係や実際の活用形の使われ方、特殊な活用をする動詞の理解など、発展的な知識を身につけることができたか。
④ （話す能力）	a　筆者の主張に沿って自らの体験や考えをまとめ、発表することができているか。

C　指導計画（全２時間）

時　間	学　習　活　動（指導上の留意点）	評価の規準と方法
	○本文を書写する。（あらかじめ指示しておく）※１	①事前にノート確認
1時間目	○作品や筆者について理解する。 ○本時の活動内容を理解する。 ○動詞（用言）の傍線引き、文法的説明の記入と答え合わせを行う。（訂正は朱書きさせる）※２ ○注意すべき語についての説明を聞き、確認する。※３ ○動詞(用言)の箇所を空欄にした口語訳プリントを完成させる。(次の時間までに口語訳を完成させるように指示する）※４ ○辞書で古語を調べる。(調べておくべき語を記載したプリントを配付し、次の時間までに辞書で調べておくよう指示する)	 ①机間巡視 ①③授業後にノート提出、活動内容や正確さを見る
	○事前にノート、プリントを提出する。※５ （授業までに余裕があれば不十分な者は改めさせる）	①②提出物で確認
2時間目	○辞書で調べた内容を発表する。（指名する）※６ ○本文中の動詞(用言)の活用形や動詞(用言)の前後の語句に注目する。※７ ○口語訳を発表する。（指名する）※８ ○筆者の主張をノートにまとめ、発表する。※９ ○筆者の主張を踏まえて、自らの体験などをノートに書き発表する。※１０ ○授業終了後、ノート、プリントを提出する。※１１	①②③ 発表内容で確認 ①②③ 発表内容で確認 ①②（④） 発表と提出物で確認 ①②（④） 発表と提出物で確認 ①③提出物確認

※指導のポイント等

どんなに忙しくてもできるかぎり細かくノートや提出物チェックをしましょう。時間の関係で全員に発言させることは難しくても、何をやったか、何をやってないかはもちろんのこと、授業中に考えたことや、学習内容への関心なども「提出物」で確認できます。考査時だけではなく、できるかぎりこまめに提出させて、提出物でコミュニケーションを図ってはどうでしょうか。

２　授業の実施、展開上のポイント（※についての解説）

※１（ノートのとり方について）

①　学年当初は行間のとり方や字の大きさなどについても必ず指導します。上級生のノートを毎年紹介して、参考にするように指示しています。

※２（文語文法の指導上のポイントについて）

①　学年当初は「ハ行四段動詞・言ふ・連体形」などのように丁寧に書かせますが、学習が進めば「ハ四・体」のように略号で書くよう指示し、最終的には動詞や形容詞の品詞分解は省略します。そうすることで真面目にやれば予習がどんどん楽になることを実感させています。ただし、形容動詞は副詞との兼ね合いや「に」の識別があるので省略しないようにするなどのめりはりをつけています。

②　基礎・基本の定着を図る場面においては、生徒の実態に応じて、動詞、形容詞などを判別できればよしとすることも考えられます。漢語＋サ変動詞で動詞をつくってみるなど、生徒の関心を喚起する方法も考えられます。

※３（文語文法の指導の進め方について）

①　動詞の場合は「基本形がウ段にならないもの（ラ変）」、「『上ぐ―上げる』などのように現代語と活用の種類が異なるもの」、「『来―来る』などのように基本形が現代語と異なるもの」などを重点的に説明します。特に活用語の基本形をきちんと理解しておかないと辞書引きなどの自学が困難になるので導入期は確認をしっかりします。

②　ペーパーテスト形式で確認もしますが、言える者に手を挙げさせたり、全員立たせた上で言えない者を座らせて(逆だとかわいそうな面もあるので)立っている者に答えさせたりするなどのゲーム的なやり方も取り入れています。

※４（補助プリントについて）

①　学習の進捗状況に合わせて空欄の幅を変えます。「確定条件」などの説明が済んでいる場合にはそれにあわせて空欄を作ります。

②　最終的にはノートに「本文、口語訳、文法的説明」の三点を書かせるようにします。

※５（予習・課題、提出物の扱いについて）

①　授業が１限の場合以外はあらかじめノートなどを提出させ、予習・課題の取り組み状況を確認します。不十分な者はそれを指摘し、授業前に提出物を返却します。

②　予習を怠る者は減点するなどのやりかたもありますが、特に学年当初は、個人の能力に応じて範囲や内容を軽減してやる、放課後や昼に追指導をするなどの対応をとって、「できるかぎり予習をする」習慣づけを重視し、減点しないようにしています。

③　時間に余裕があれば詳しく添削したり書き込んだりしますが、余裕がない場合は確認印などで済ませます。内容的に気になる者については個別に呼び出して指導します。

④　本文の暗唱や音読を課題とする場合もあります。特に文法的な説明の例文としてよく取り上げられる箇所については暗唱と文法的説明の暗記を積極的に取り入れています。暗唱・暗記の確認には、授業時間だけでなく放課後や休み時間も使っています。

※６（発表時の工夫について）

①　生徒の説明だけですませる語と用法や特殊な訳し方など詳しく補足説明する語とに分けてめりはりをつけています。

②　補助動詞などの特殊なものについては、すべてを説明しようとせず、学習段階や時期を考慮して簡単にすませる場合があります。

※７（発展的学習、次時以降へのつながりについて）

①　主に下接する語に注目して活用形の特徴を説明します。また、打ち消しや推量の助動詞は未然形に、時制を表す助動詞は連用形に下接するものが多いなど、助動詞にも触れて次に学ぶ助動詞学習の導入とします。

※８（口語訳について）

①　同一箇所を複数名に答えさせて、よりよい口語訳をつくるようにします。また、口語訳をあえて一つに固定しない場合もあります。

②　本人なりの努力が伺える解答は必ず褒めますが、できるかぎり正確な訳に直すように指導します。

※９（課題の出し方や発表上の工夫について　その１）

①　ノートに自分の考えをまとめさせるだけでなく、生徒同士で相互評価をさせる場合もあります。その場合には採点の基準を詳しく示します。また、生徒の発表を材料として、板書した上で添削を行うこともあります。

③　いくつかの解答を板書し、比較して説明することもあります。

※１０（課題の出し方や発表上の工夫について　その２）

①　授業の進み具合にもよりますが、宿題とする場合もあります。

②　生徒相互で読み合わせをさせたりもします。優れたものを次時に紹介したり、プリントなどにまとめて配付したりする場合もあります。

※１１（提出物の確認上のポイントについて）

①　文法的説明の訂正や、筆者の主張や自分の体験の記述など、授業中に指示した作業項目が行われているかを確認します。

②　その時間の授業の進め方が適切であったか、指導者の意図・工夫が伝わっているかなどを特に遅進者を中心に提出物を通して確認します。

３　言語活動の充実の工夫

○　ノート、プリントを活用し、全員に自分の意見を書かせたり、作業内容を記録させたりすることによって、主体的に授業に参加できる形をつくる。

○　基本形(終止形)を見極め、自ら辞書を引いて自学が行えるような基礎を作る。

○　発表＋提出物確認、添削の形を多用し、生徒・指導者間、生徒同士で考えや意見を交わしたり確認したりできる形をつくる。

※活動のポイント等
　時間内に必ず一度は自分の意見、作業内容を文章化し発表・提出する機会をつくります。指名の有無に関わらず、考えようとする姿勢を重視します。

４　学習評価の工夫

○　事前事後にノート、プリント等の内容を確認することによって、「関心・意欲・態度」の評価を生徒にタイムリーに伝えるようにする。

○　提出物評価は該当範囲の全体的な評価と、特定箇所のピンポイント的な評価の二つを用意する。

※学習評価のポイント等
　学力面に課題のある者や集中力が持続できない者も、一定の評価が得られるよう、チェックポイントを複数用意しています。

２　公民「現代社会」
実社会で活用できる確かな学力の定着に向けて
～「労働」について主体的に考察する授業展開～

１　学習活動の概要

（１）　**単元名**　「豊かな生活と福祉社会の実現をめざして」

（２）　**目標**

○雇用や労働問題について理解を深めさせるとともに、自己の在り方生き方に関連させながら労働について多角的に考察させる。

○社会保障について理解させることにより、他者や社会に関心を広げ、全ての人々がよりよく生きられる福祉社会の実現について考察させる。

（３）　**指導計画**（全４時間）**及び評価規準**（一部）

時間	学習内容（ねらい）＼観点	評価規準			
		①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	【　第１次　労働者の権利　～働くルールを知ってハンドブックを作ろう～　】				
1（本時） 2	労働者の権利について理解し、労働関係法制を働くルールとしてとらえ関心を高めるとともに、自己との関わりに着目しながら考察する。	労働者の権利や働くルールに対する関心を高め、それを意欲的に追究し、自己の生き方と関連させながら考察しようとしている。	労働者が法律等で保護されている理由を収集した情報から多角的に考察し、働くルールをハンドブックにまとめて発表するなど、適切に表現している。	労働者の権利や働くルールについて、学習に役立つ情報を適切に選択し、効果的に活用している。 労働基準法から、特に必要な労働条件を読み取っている。	労働者の権利やそれらを保障する法律の具体的内容について理解し、実生活に生かせる知識として身に付けている。
3	【　第２次　現代の雇用・労働問題　】				
	雇用情勢の変化と労働者を取り巻く様々な問題について、非正規雇用の増加や仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）などの具体的事例をあげて多角的に考察するとともに、雇用の在り方や労働環境改善に向けての課題を国民福祉の観点から主体的に追究する。				
4	【　第３次　社会保障の役割と福祉社会の実現　】				
	社会保障の意義を理解し、少子高齢社会における日本の社会保障制度の課題について、福祉社会の実現に向けて何ができるのか、自己の在り方や生き方とともに考察する。 ＊他教科・科目との連携により学習内容の精選を行い、１時間でまとめる。 （家庭科「家庭基礎」において、社会保障制度についてはすでに学習している。）				

２　指導場面の具体例より

（１）授業のイメージ

〈どのような生徒に〉⇒「公民科は暗記科目である」という意識が強い、大半が高校卒業後就職する３年生を対象にした授業。

〈どのタイミングで〉⇒就職が内定し、社会人として自覚し始める時期に展開する授業。

〈どのような内容を〉⇒他人事ではない現実的なテーマとして、自己の生き方と結び付けやすい「労働」の理想と現実について考える授業。

〈どのような思いで〉⇒様々な情報があふれる中、授業での学習を手がかりに、自分の頭で考える力や実社会に出てからも学び続ける力、未来をたくましく生き抜く力を身に付けてほしいというメッセージをこめた授業。

（２）授業の流れ

学習内容	生徒の学習活動	指導のポイント	評価
≪　導入　～つかむ～　≫			
(1)働くとは 労働の意義と目的 望ましい働き方 (2)働くルール クイズに挑戦	・「何のために働くのか」「いきいきと働くためには何が必要なのか」考える。 ・クイズに○×で答える。 ・解答の理由と疑問点について意見を交換する。 ・働くルールに関連する法律について考察する。	・先輩の「新聞切抜きノート」を紹介し労働の理想と現実について問いかける。 ・10 問程度の簡単なクイズ（生徒の興味を引き、意外と知らない問題を作成する）で生徒の理解度を把握する。【資料１】	①
≪　展開１　～ひろげる～　≫			
(1)働くルールとは 労働条件 労働契約 就業規則	・２、３名のグループで労働基準法を読み、教科書や資料集を参考にして、プリントに記入しながら理解する。 ・クイズの文章を訂正することで働くルールの内容を理解し、なぜ法律が必要なのか考える。 ・ルール違反の場合はどうするか考える。	・声に出して読ませることで、法律の文言に慣れさせる。 ・数名での作業により効率よく行わせる。 ・アルバイト経験のある生徒に、学校に提出した労働条件通知書の具体的事項を発表させる。 ・泣き寝入りしないために学ぶことを強調する。	③
≪　展開２　～ふかめる～　≫			
(1)労働者の権利 勤労権 労働三権	・日本国憲法第 27 条・28 条が保障する労働者の権利を答える。	・基本的人権（社会権）として学習したことを指摘する。	④
(2)労働三法とその他の労働関係法規	・労働三法のほか、労働関係の具体的な法律として	・厚生労働省のポスター掲示やホームページの紹介	

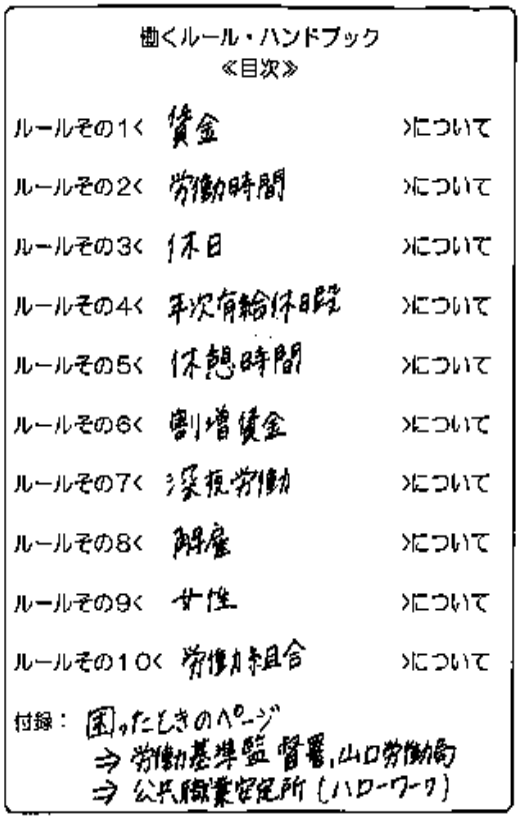
最低賃金法 男女雇用機会均等法　など	どのようなものがあるか理解する。	により、最低賃金法などについて簡潔に説明する。	
≪　展開３　～まとめる～　≫			
(1)「働くルール・ハンドブック」作成項目(例) 賃金、休日、 労働時間、 休憩時間、 割増賃金、 深夜労働、 解雇、 年次有給休暇、 最低賃金、 監督機関	・労働基準法等を手がかりに、労働者として最低限知っておくべき働くルールを書き出していく。 ・クラスで、ハンドブックの目次を決める。 ・項目ごとにグループに分かれ、授業で学んだことや調べてわかったことを簡潔な文章や図表にわかりやすくまとめる。	・クラス全員が協力してハンドブックを作成することを伝える。 ・10 項目にまとまるようアドバイスする。 ・後日、クラスで編集し、印刷したものをハンドブック（Ａ５横を中央で二つに折りＡ６サイズに）として各自に配付することを伝える。【資料２】	②③
≪　まとめ　～つなげる～　≫			
(1)本時のまとめ (2)次時の予告	・働くルールについて知ることが自分を守ることにつながることを理解する。 ・ハンドブックを完成させ働くルールと理想の働き方について発表することを確認する。	・「どのような労働条件で働きたいか」から、「いかに生きるか」について考えを深めさせる。 ・厚生労働省が提唱する「ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事)」について触れる。	④

（３）資料

【資料１】働くルール○×クイズ（例）

①〔　〕アルバイトも有給休暇を取得できる。
②〔　〕使用者は、アルバイトを除く被雇用者本人に雇用条件を文書で知らせなければならない。
③〔　〕親は、18 歳未満がアルバイトで得た給料を本人の代わりに受領できる。
④〔　〕使用者は、18 歳未満を深夜労働(午後 11 時以降、翌朝午前 6 時以前)に従事させてはならない。
⑤〔　〕18 歳未満の場合、親が労働契約を結ぶ。
⑥〔　〕最低賃金は全国一律である。　　*（後略）*

【資料２】ハンドブック

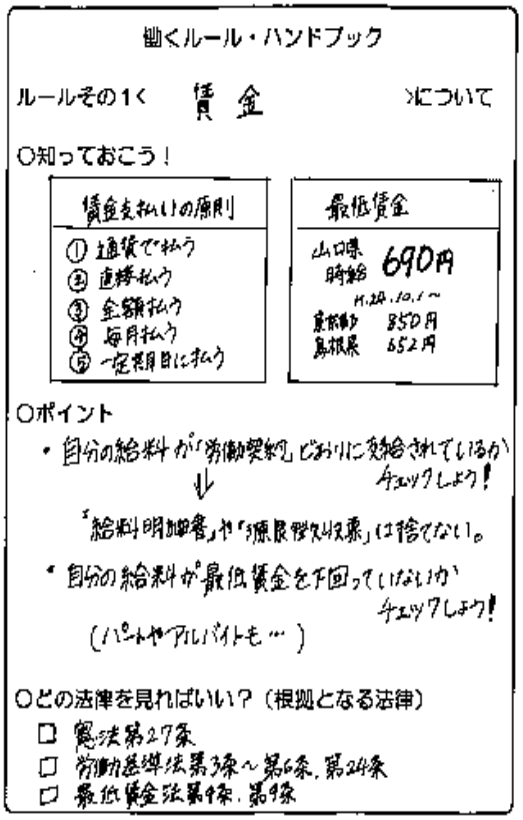


働くルール・ハンドブック
≪目次≫

ルールその1＜ 賃金 ＞について
ルールその2＜ 労働時間 ＞について
ルールその3＜ 休日 ＞について
ルールその4＜ 年次有給休暇 ＞について
ルールその5＜ 休憩時間 ＞について
ルールその6＜ 割増賃金 ＞について
ルールその7＜ 深夜労働 ＞について
ルールその8＜ 解雇 ＞について
ルールその9＜ 女性 ＞について
ルールその10＜ 労働組合 ＞について

付録： 困ったときのページ
⇒ 労働基準監督署、山口労働局
⇒ 公共職業安定所（ハローワーク）

- 1 -



働くルール・ハンドブック

ルールその1＜ 賃金 ＞について

○知っておこう！

賃金支払いの原則
① 通貨で払う
② 直接払う
③ 全額払う
④ 毎月払う
⑤ 一定期日に払う

最低賃金
山口県 時給 690円
H.24.10.1～
京都府 850円
島根県 652円

○ポイント
・自分の給料が「労働契約」どおりに支給されているか チェックしよう！
↓
「給料明細書」や「源泉徴収票」は捨てない。
・自分の給料が最低賃金を下回っていないか チェックしよう！
（パートやアルバイトも…）

○どの法律を見ればいい？（根拠となる法律）
□ 憲法第27条
□ 労働基準法第3条～第6条、第24条
□ 最低賃金法第4条、第9条

- 2 -

３　言語活動の充実の工夫

○教室にただ「いる」のではなく、授業に「参加する」という活動型授業への取組
例：クイズ、ゲーム、ロールプレイ、ペアやグループでの意見交換及び協同的な学習
○年間を通じての継続的な取組と、発表（スピーチ、印刷物等による）場面の設定
例：新聞切抜きノートの作成（記事を読む→選ぶ→要約する→自分の考えをまとめる）

４　学習評価の工夫

○評価の場面…学習前の生徒の状況把握、学習過程における評価、学習後の評価
○評価の時期…学期末や学年末、単元ごと、単位時間ごと
○評価の方法…定期考査・時事問題小テスト、ノート、ワークシート、制作物など

［参考資料・文献等］

『知っておきたい働くときのルールについて』厚生労働省労働基準局監督課
『平成 24 年版厚生労働白書―社会保障について―』厚生労働省ホームページ

３　数学「数学Ｂ」
効果的なワークシートの導入　～「群数列」は縦書きで処理すべし～

１　学習活動の概要

（１）単元名

単元「数列」

ア　数列とその和

（ア）等差数列と等比数列

等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項及び和を求めること。

（イ）いろいろな数列・・・本時「群数列」

いろいろな数列の一般項や和について、その求め方を理解し、事象の考察に活用すること。

イ　漸化式と数学的帰納法

（ア）漸化式と数列

漸化式について理解し、簡単な漸化式で表された数列について、一般項を求めること。また、漸化式を事象の考察に活用すること。

（イ）数学的帰納法

数学的帰納法について理解し、それを用いて簡単な命題を証明するとともに、事象の考察に活用すること。

［用語・記号］　Σ

（２）目標

単元目標

簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。

本時の目標

群数列について理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。

等差数列、等比数列などの基本的な数列の内容は既に学んでいる。問題に応じて、様々な公式や定理を利用できる柔軟で粘り強い思考力を磨いていきたい。ただ、せっかく立式はできても、計算力不足により正解を導けない生徒もいるため、途中計算を丁寧に補足しながら指導していく必要がある。授業構成としては、なるべく多くの発問を行うことで、生徒が授業中、常に主体的に考えているという状態をつくるよう心がける。数列の分野の中でも特に理解しにくい「群数列」について、どのような規則に基づいて群をまとめればいいか見つけ出すことから理解させたい。特に本時においては、以下のことに着目し、解決の糸口を見つけ出す。

・グループ分けしないときの数列の性質を調べる。

・第 n 群の項数や初項・末項を n の式で表す。

・別解として階差数列を利用した解法を示す。

（３）指導計画等（学習指導案　本時略案）

学習内容・学習活動	予想される生徒の反応	指導の留意点及び評価規準
＜導入＞ 前時までの学習内容を復習する。 等差数列・等比数列の一般項と和の公式を確認する。 本時の学習内容を確認する。	・教科書やノートでこれまでの学習内容を振り返る。	・公式を確認しながら板書する。
＜展開＞ 課題問題 奇数の列を次のような群に分ける。 1/3, 5/7, 9, 11/13, 15, 17, 19/… (1)第 5 群を述べよ。 (2)第 n 群の初項を求めよ。 (3)第 n 群の項の総和を求めよ。 (4)1999 は第何群の何番目か。		・解法の方針について説明する。
（解法Ⅰ） グループ分けをしないときの数列の性質を調べながら、第 n 群の項数や初項（末項）を n の式で表す。 ・ワークシート【別紙】を利用する。 ・問題(1)を解く。 ・問題(2)を解く。 ・問題(3)を解く。 ・問題(4)を解く。	・グループ分けの規則性に気付く。 ・等差数列の一般項と和の公式（2 種類）の確認をする。	・どのような規則なのか確認させる。 ・思考・判断のもとになる表を作らせる。 ・初項・公差・項数を確認させる。 【数学的な見方や考え方】 群数列を用いて、数列を考察し表現することができる。
（解法Ⅱ） 階差数列を利用して、問題(2)を解く。	・階差数列の公式が正確に表せない。 ①「$n \geqq 2$」を忘れる。 ②「$\sum^{n-1}$」と「$\sum^{n}$」を間違う。 ③「Σbk」と「Σbn」を間違う。 ④「$n=1$ のときも成り立つ」ことの確認を忘れる。	・解法Ⅱについて発問し、生徒にチャレンジさせる。 【関心・意欲・態度】 群数列の考察に、階差数列を活用しようとしている。
＜まとめ＞ 次時の予告をする。		

※指導のポイント等
・ワークシートを利用し、「群数列」を縦書きで処理させる。
・初項だけでなく、末項でも考えさせる。
・階差数列でも群数列の性質が分かることに気付かせる。

2　指導場面の具体例（ワークシートの活用例）

数列　a_m ：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

例として「和」としたが、目的に応じて項目を変える。

グループ分けをしない数列の一般項

$a_m =$　　…①

群	項	項数	和	…
1				
2				
3				
4				
5				
…				
$n-1$				
n				

第 n 群の（　初項　・　末項　）を b_n とおく。

２つのバージョンを求めることで、それらが別々の数列ではなく、項数だけの違いであることを気付かせたい。そのために、あえて同じシートで解かせる。

群数列のおまじない

$b_n = a_m$　…②

「数学は難しい」というイメージを払拭するような表現をワークシートのどこかに入れたい。

b_n は全体では何番目の項？

$m =$

$=$　　…③

①②③から b_n を求めると

$b_n =$　　②より

$=$　　①より

$=$　　③より

$=$

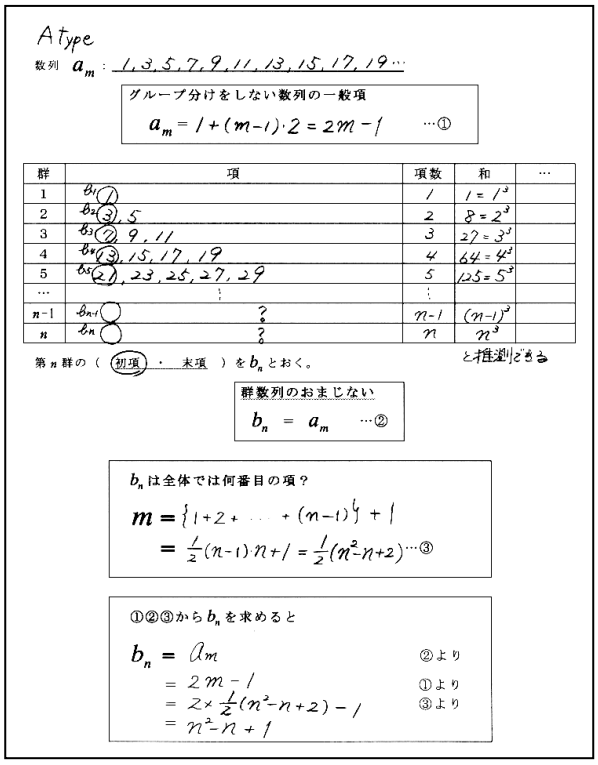
注意　「…」は問題に応じて項目を立てる。

$n \geqq 2$　等は考え方が理解できてから説明する。

小事を意識し過ぎると、大局を見失うことが多い。一番させたいことを優先させたい。

求めた①～③をどのように扱っていいのかわからない生徒が多いのではないか。今後のためにも、今回はその流れを示す方を選択した。

【記入例】末項（記入例のＢtype）の方が考えやすい。



A type

数列 a_m : 1, 3, 5, 7, 9, 11, 13, 15, 17, 19…

グループ分けをしない数列の一般項

$a_m = 1 + (m-1)\cdot 2 = 2m - 1$ …①

群	項	項数	和	…
1	b_1 1	1	$1 = 1^3$	
2	b_2 3, 5	2	$8 = 2^3$	
3	b_3 7, 9, 11	3	$27 = 3^3$	
4	b_4 13, 15, 17, 19	4	$64 = 4^3$	
5	b_5 21, 23, 25, 27, 29	5	$125 = 5^3$	
…	⋮	⋮		
$n-1$	b_{n-1} ?	$n-1$	$(n-1)^3$	
n	b_n ?	n	n^3	

第 n 群の（ 初項 ・ 末項 ）を b_n とおく。 と推測できる

群数列のおまじない

$b_n = a_m$ …②

b_n は全体では何番目の項？

$m = \{1 + 2 + \cdots + (n-1)\} + 1$

$= \frac{1}{2}(n-1)\cdot n + 1 = \frac{1}{2}(n^2 - n + 2)$ …③

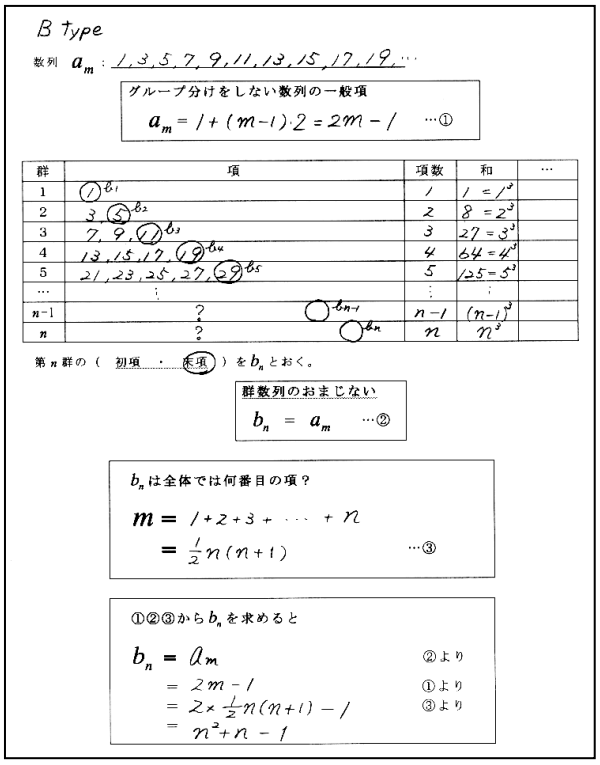
①②③から b_n を求めると

$b_n = a_m$ ②より

$= 2m - 1$ ①より

$= 2 \times \frac{1}{2}(n^2 - n + 2) - 1$ ③より

$= n^2 - n + 1$



B type

数列 a_m : 1, 3, 5, 7, 9, 11, 13, 15, 17, 19…

グループ分けをしない数列の一般項

$a_m = 1 + (m-1)\cdot 2 = 2m - 1$ …①

群	項	項数	和	…
1	1 b_1	1	$1 = 1^3$	
2	3, 5 b_2	2	$8 = 2^3$	
3	7, 9, 11 b_3	3	$27 = 3^3$	
4	13, 15, 17, 19 b_4	4	$64 = 4^3$	
5	21, 23, 25, 27, 29 b_5	5	$125 = 5^3$	
…	⋮	⋮		
$n-1$	? b_{n-1}	$n-1$	$(n-1)^3$	
n	? b_n	n	n^3	

第 n 群の（ 初項 ・ 末項 ）を b_n とおく。

群数列のおまじない

$b_n = a_m$ …②

b_n は全体では何番目の項？

$m = 1 + 2 + 3 + \cdots + n$

$= \frac{1}{2}n(n+1)$ …③

①②③から b_n を求めると

$b_n = a_m$ ②より

$= 2m - 1$ ①より

$= 2 \times \frac{1}{2}n(n+1) - 1$ ③より

$= n^2 + n - 1$

3　言語活動の充実の工夫

定期的に30分程度の時間をとり、簡単な確認テストをする。確認テストは10分程度で実施し、その後10～15分程度、生徒どうしで交換してお互いに採点・添削・解答の説明などをさせる。

※活動のポイント等
　採点することによって採点者の理解度を深めることができる。また、理解が不十分な部分が明確になることで、勉強に対するモチベーションの高揚が期待できる。

4　学習評価の工夫

生徒の学習状況を多面的に評価するため、観点別の評価規準を設定し、考査の結果だけでなく、生徒の学習活動全てが客観的に評価されるよう様々な評価対象をもとに、各学校の実態に即した方法で評価することを心がける。

＜評価対象の例＞

- 授業中の態度・発言やノート
- 授業中の確認テスト
- 朝の学習プリント（週１回実施）
- 演習問題の板書・説明やワークシート
- 定期考査
- 定期考査のやり直し
- 問題集用ノート（考査毎に提出）
- 長期休業中の課題帳や課題プリント　等

[参考資料・文献等]

・「高等学校学習指導要領解説　数学編　理数編」　文部科学省　（実教出版）
・「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」
国立教育政策研究所教育課程研究センター
・「馬場・高杉の合格！数学」シリーズ　マセマ出版社

４　理科「理科課題研究」
理科課題研究のすすめ
～口頭発表、ポスター発表、論文集の作成などの機会を～

１　はじめに

（１）「理科課題研究」とは

学習指導要領解説によると、「『理科課題研究』は、生徒自らが科学に関する課題を設定し、探究活動などで用いた探究の方法を活用して個人又はグループで研究を行わせ、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、創造的な思考力を養うことを意図した科目である」となっている。ここでは、徳山高校理数科で長年続けてきた理数化学における課題研究の経験とＳＳＨにおける課題研究の取組をもとに、普通科で可能な課題研究について考えていきたい。

（２）「理科課題研究」の目標

学習指導要領では「科学に関する課題を設定し、観察、実験などを通して研究を行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、創造性の基礎を培う」ことが目標に掲げられている。特に、自ら課題を設定する能力と、課題解決のための計画を立てる能力、研究の成果をまとめ、発表を行う能力の３つは、大学等で研究を進めていく上でも重要であり、これらの能力を高める意味でも課題研究を履修させることは重要であるといえる。

（３）「理科課題研究」の履修について

理科課題研究の履修制限は、高等学校の理科で１科目以上の基礎を付した科目を履修した後での履修させることが求められている。そのため、２年生か３年生の選択科目として履修させることが可能であると思われる。標準単位数が１単位であるので、夏期休業中などの特定の期間に集中的に実験等を実施することも可能である。全員に履修させるより、希望者に門戸を開く形で、他教科との選択履修も視野に入れた教育課程の編成が必要であろう。

２　「課題研究」の具体例１（徳山高校理数科で行った「理数化学」における実践）

徳山高校では３０年前より理数科の理数化学の授業で課題研究として「島田川の水質検査」を行っている。光市を流れる島田川の水を１７か所採取して、次の項目について分担して分析し、結果をまとめるものである。分析項目は、①ｐＨ、②酸度・アルカリ度、③アンモニア性窒素、④硝酸性窒素、⑤硫酸イオン、⑥塩化物イオン、⑦硬度、⑧ＣＯＤ、⑨リン酸イオンの９項目である。②⑥⑦⑧は、ビュレットによる滴定分析、③④⑤⑨は分光光度計による比色分析を行っている。４０名の生徒が９班に分かれて、水質検査法が書かれた実験指示書を読み解きながら試薬を準備し、実験を進めて分析結果をまとめる。この課題研究の中では、実験計画を立てたり、結果の妥

当性を検証したりすることが重要であり、そのために、過去との比較や他所の分析結果との比較、さらには複数回の実験による検証など、答えが一つではない状況において様々な角度から試行錯誤を重ね、一つの結論を導く過程を体験することとなる。

３０年の間には、上流のダムの建設や護岸工事の進展、洗剤の無リン化など島田川を取り巻く環境が変化しており、その影響が生徒達の調査記録として残されている。これらの蓄積の上で、自分達の結果が次の後輩達に受け継がれる責任感と期待が実験意欲をさらに高める効果も見られる。

この課題研究は、一定のテーマをもとに、分担して実施する形のものであるが、科学の手法を体験するものとしては簡便で扱いやすいといえる。卒業生からは、大学での実験や研究で課題研究の体験が役に立ったとの話をよく耳にする。

３　「課題研究」の具体例２（徳山高校で行った「ＳＳＨ課題研究」における実践）

徳山高校では、平成２２年度よりＳＳＨ指定校として、理数教育に関するカリキュラム開発を実施している。その中で、理数科２年次に「ＳＳＨ課題研究（２単位)」を設定し、履修させている。ここでは、４月から１年をかけて、自分が興味・関心をもつ内容について、課題を設定し、実験計画を立て、実験を実施し、結果をまとめ、発表するという一連のプロセスを体験させている（１１月は島田川の水質調査のため中断)。平成２４年度の生徒が設定したテーマは、次の１１テーマである。タイトルは２月の発表会で生徒が示したものである。〔(　) 内の解説は筆者が加筆した。〕

1　ダンゴムシの交替性転向反応の謎に迫る（ダンゴムシの生態）
2　飛沫に立ち向かう（トイレにおける飛沫の生じ方）
3　時間経過における COD 値の変化（水質調査の発展）
4　津波が建築物に与える力（津波による影響）
5　紙相撲（紙相撲における法則性）
6　空間への音の伝播（音の伝わり方）
7　水しぶきについて（落下物による水しぶきの発生）
8　水面の色の見え方（水面から見える水の色について）
9　様々な環境下におけるプラナリアの再生能力（プラナリアの生態）
10　ゼリーの安全性を科学的に検証する（ゼリーによる窒息死の防止）
11　母音と子音の境界を探そう！！（声紋の研究）

いずれも、高校生らしいテーマではあるが、実験計画を立てることが難しい内容も含まれており、定量的な扱いに困難さを伴う場面も見られた。しかし、その困難な体験も含めて、実験装置を自作し、自分達で工夫しながらの試行錯誤をしながらの実験は他のどの科目の授業からも得られない充実感が得られるようだ。休日や放課後に追加実験を行う班もあり、熱心な取組が見られた。

教員の指導体制としては、理科教員が５人程度で１１班の研究を分担した。その際、教員の役割としては、教員自身が未知の内容が多いため、基本的な科学的手法の指導が中心となり、生徒の自発的な活動を見守る場面が多かった。重要な点は、教員が指示を出し過ぎると、生徒の意欲を低下させる傾向が見られることである。生徒が失敗

することで、成長があるのだと考え、忍耐が必要であるといえる。

今回の課題研究において、反省点としては、各テーマが決まった後、そのテーマについての先行研究調査が不十分であったことである。先行研究調査とは、他の研究者が、自分の設定したテーマについてどのような研究をすでにしているのかを調べ、その上で自分なりの研究を進めていく方針を立てることである。実際の研究でも、先行研究調査が重要であるので、この体験を重視する必要がある。現在では、インターネットで図書検索や文献検索が可能になっているので、事前に範囲で資料を収集させれば、実験計画がよりスムースに立てられたであろう。

新教育課程においては、理数科の必履修科目として「課題研究」を履修することになっており、ＳＳＨ校以外でも複数の教員による同様の取組がなされている。このことは、「課題研究」が特別の活動ではなく、全ての理数系教員が「課題研究」を指導できるようになることが求められているといえる。

４　言語活動の充実の観点を取り入れた工夫

課題研究を実施した場合、言語活動の充実への観点からも、研究成果の発表は必ず行わせたい。発表の形態には次のようなものが考えられる。

○　口頭による発表
○　ポスターによる発表
○　論文による発表

口頭発表は、時間はかかるが、最も効果的な発表形態である。プレゼンテーションソフトでスライドを作成し、発表原稿を考え、１０分から１５分程度で研究内容を伝える。準備をしたつもりでも、練習が不十分であると、うまく相手に伝えることができないものであるが、回数を重ねるごとにプレゼンテーション能力は向上する。

ポスター発表は、同時に多数の発表ができる利点がある。しかし、会場の制約などで、声が重なり合い、聞き手側が困難を感じる場面もある。効果的なポスターを作成し、聞き手の興味を引きつける話し方などが求められる上、聞き手と発表者の距離が近いため、コミュニケーション能力の充実には効果的であるといえる。

文書による発表は、研究論文集の作成など、記録として残すときに効果的である。作成時間はかなりかかるが、発表時間・場所を必要としないため、これらの制約が多いとき活用される。

課題研究では、生徒の自発的な活動を主体とするため、発表意欲が高いといえる。様々な発表形態を組み合わせることで、新教育課程で求められる言語活動の充実が可能となる。

口頭発表、ポスター発表、論文集の作成など発表の機会を用意することが重要

５　学習評価の工夫

生徒の活動を評価するには、取組の場面ごとに次のような観点が考えられる。

○　課題設定への取組

・自分にとって興味・関心のある課題を設定できたか。

・先行研究の調査を行えたか。

○　実験への取組

・適切な仮説を立てられたか。

・実験計画を立てて実験を進められたか。

・対照実験など適切な科学的手法を活用した実験を行えたか。

・実験データを正確に記録し、結果の妥当性を検討できたか。

・表やグラフを用いた分析ができたか。

・仮説の検証（考察）が科学的な根拠（実験データ等）に基づいているか。

○　成果発表への取組

・口頭発表の態度・技術（声の大きさ・口調・表情・パフォーマンス　等）

・プレゼンスライドの構成・デザイン（要旨を簡潔にまとめられているか）

・ポスター発表資料の構成・デザイン（要旨を簡潔にまとめられているか）

・レポートの書き方・構成

重要なのは、高校生が行う課題研究として、独自性や新規性を求めるより、科学の手法を重視した取組がなされたかを評価することに重点を置くべきだということである。科学の手法とは、課題設定の際の調査、実験条件の制御、実験結果のまとめ方など、将来の研究活動につながる体験がなされたかどうかを、自己評価、相互評価、指導者からの評価などを交えて多角的に評価することが求められている。

具体的には、100 点満点の中で、課題設定に 20 点分、実験に 50 点分、成果発表に 30 点分など配点を決めて割り振り、合算して評価を出す方法がある。複数の担当者で、平均点をどのくらいに設定するかを相談しながら評価するには適切といえる。

また、別の方法では、評価可能なすべての取組を 5 点満点や 10 点満点のような形で割り振り、合算したうえで 100 点満点に換算する方法がある。担当者が少ない場合などでは、この方法が簡便で扱いやすいといえる。

評価は、活動の中で、科学的手法を実践できたかを見ることが重要

［参考資料・文献等］

「理科課題研究ガイドブック　～どうやって進めるか、どうやってまとめるか～」

小泉治彦著　千葉大学先進科学センター

※千葉大学・高大連携企画室のＷｅｂページよりＰＤＦ版がダウンロードできる。

http://koudai.cfs.chiba-u.ac.jp/guidebook2.html

５　外国語「コミュニケーション英語Ⅰ」
４技能を統合したコミュニケーション能力の育成
～教室にコンテクストを持ち込む工夫～

１　コミュニケーション能力育成のための教材研究

新学習指導要領において、「言語」は知的活動やコミュニケーション、感性、情緒の基盤であるとされ、国語科のみならず、各教科の指導の中で言語活動を充実させることが重視されている。さらに、外国語の複数の科目名には「コミュニケーション」の冠が付けられている。コミュニケーションという語は一般的には「意思伝達」「意思疎通」と解されるが、ここでは、“Exchange of Meaningful Information between a Sender and a Receiver based on Context”と捉えたい。すなわち「情報のやり取り」であり、特定のコンテクストの下、必ず情報の sender と receiver が存在することになる。教室では、「教師⇔生徒」、「生徒⇔生徒」のコミュニケーション活動を促進させ、教室での活動に information gap があることを前提とし、それを補う活動を展開していくことが必要である。教室に authentic なコンテクストを持ち込み、realia(実物教材)を提示することが授業をダイナミックに展開する鍵であり、それを踏まえた教材研究を教師は心掛けるべきである。筆者は毎時間黒板の横に PC スクリーンに教材を投影する準備をし、realia または mapping、 chart、 graphic organizer の手法で文字情報を提示する方法をとっている。また、例文の提示においてコンテクストを持たせるには、message のやり取りである以上、１文ではなく２文以上示す必要があると思われる。教室での一つひとつの activity が４技能の中のどれに焦点を合わせたものであるのかを教師も生徒も意識することが必要である。

２　動詞構文中心の語彙指導

新学習指導要領においては、指導すべき語彙が中学校で９００語から１２００語に増加し、高等学校の「コミュニケーション英語Ⅰ」では、それに４００語加わり１６００語、「コミュニケーション英語Ⅱ」ではさらに７００語加わり２３００語、「コミュニケーション英語Ⅲ」では７００語加わり３０００語となる。しかし、教科書によって扱う語彙は異なり、各辞書でも重要３０００語は必ずしも一致しない。英語にはＳＶＯの文型が多く存在することから、Ｏを focus にした受動態の形が多くみられ、特に感情の表現は be＋p.p.＋(at/with/about)で表されることが多いということを生徒に絶えず意識させる。そして、新出動詞は必ず紙の辞書で確認するよう促している。筆者は、動詞特に他動詞を中心とした動詞構文の定着こそ英語学習の核心であると信じている。中学校で学んだ基礎的な動詞を用いて高校の教科書の text の内容を平易に summarize し、中学校で既習の運用度の高い動詞を用いて新出動詞を paraphrase して提示することによって英語を使って英語を理解していく活動を多く取り入れている。

また、教科書の各 Lesson は２～４の Part に分かれ、それぞれの Part は２～３の paragraphs から成るという構成が一般的である。paragraph が情報伝達のユニットであるという捉え方は、センター試験(記述)の第６問、センター試験(リスニング)の第４問、英検準２級・２級の１次試験での長文読解、２次試験での第１問にも見られる。

さらに、英語にはＳＶＯの構文が多いので、内容理解の質問をする際には、能動文、受動文を意識させる。

3　Text Types and Types of Questions

英語の Text は Dialogue か Monologue の２種類に分けられ、さらに Monologue は Narrative と Expository に分類できる。それぞれは次のように特徴づけられる。

Text Pattern ⟹ Characteristics

- Dialogue ⟹ You and I relationship　ex) A: ”Why don’t **you**…?”　B:”I’m sorry….”
- Monologue
  - Narrative (Story) ⟹ Beginning, Middle, Ending, Characters, Plots, Setting
  - Expository
    - Description ⟹ Describing an object/a place/a person
    - Cause and Effect ⟹ Cause-and-Effect relationship
    - Comparison-Contrast ⟹ Similarities and Differences
    - Direction Sequence ⟹ Orders of accomplishing something
    - Explanatory ⟹ Key phrases and Supporting detail

Text Type に応じた Types of Questions

Monologue/ Text pattern	Types of Questions
Narrative / (Story) Chronological	How many people appeared? Who is...? What happened first? Where did it take place? What happened after…? What did these events lead to?
Expository / Description	What kind of thing is …? How is…defined? What is…used for? What varieties of …exist? What does it have anything to do with…? What kinds of … are there? What should we be aware of? What’s important in addition to…?
Expository / Cause and Effect	What caused…? What was caused by…? What were the effects of…? What has emerged as a result of…? Why do they…?　What’s the purpose of …? What is the problem with…? What is the reason…? What does…bring about?
Expository / Comparison-Contrast	How are…and…alike? How are they different? How are…and…related to…? What is…equal to? What do…have in common? What kind of relationship does … have? How can you compare…with…? How does … contrast with…?
Expository / Direction sequence	What are you required to do? What should you do first? How do you …? What should you do after…? How should you evaluate your performance?
Expository / Explanatory	What is the significance of ...? What does the diagram illustrate…? What is the main idea?　What supports that idea? What is the key factor for…? What is the advantage of …? What is the disadvantage of …? What is the main feature of …? How does … work? What makes it possible for…? What’s the additional factor behind…? How can the device…? What can we do through…?

Gillet and Temple(1986) *を参考に筆者が追加

Dialogue / Text Pattern	(7W1Hq.) What happened? Who asked for advice? Who was advised to…? What did she suggest to him? Whom did she tell it to? Where did that happen? Why did he do…? When did she decide to…? How did he feel about…?

4　指導例

学 習 内 容	生 徒 の 学 習 活 動	教 師 の 支 援
◇導入 Schema-Activation Activity (Teacher⇔Students)	教科書を伏せ、スクリーン上の Title から思いつく単語を発表する。次に 7W1Hq.を読み、予めコンテクストを予想し、スキーマ(先行知識)を持つ。	"What kind of word do you think of seeing this title?"と質問し、生徒の反応を板書する。Lesson の Title と全体の内容に関する 7W1Hq.をスクリーンに文字で提示し、生徒のスキーマの活性化を促した後スクリーンの文字情報は消す。
◇Listening Schema-Consolidating Top-down Activity (Teacher⇔Students)	教科書を伏せ、教師の summarization を聞き、realia を基に各自のスキーマの修正を図る。	Realia、スクリーン上の写真や動画を用いて視覚、聴覚情報によるコンテクスト提示を図り、Lesson 全体の summary を新出の動詞を paraphrase し 1 paragraph で Oral Introduction を行う。
◇Listening-Speaking T-F Question-Answering 7W1H Question-Answering (Teacher⇔Students)	T-F questions ⇒ 上記の summary を聞き取れたか、True なら教科書の表表紙を、False なら裏表紙を教師に向ける。 7W1H q. ⇒ 導入で視覚媒体で示されたものと同じ質問を聞き、答える。	T-F questions　全生徒の解答が瞬時に把握できる。Listening 活動中には文字を見ないことを徹底できる。 7W1Hq. ⇒ 生徒の答に、"Your answer is almost correct." "Do you think so? Later, let's check it." 等 text を読むことへの動機付けとなる Interaction を行う。
◇While-Reading Activity (Teacher⇔Students) ◇Question-Answering based on Text type (Teacher⇔Students) Monologue Text Type (MTT) or Dialogue Text Type (DTT)	MTT ⇒ 教科書を見ながら question-answering 活動 DTT ⇒ 対話文の "I" "You" を S/he に変え、時制も変え、narrative text に rewrite する。 ex.　A :"How about …ing?" B :"Then, I'll …."　→ A suggested that B should …, so s/he accepted his/her advice and s/he would….)	MTT ⇒Text Type に基づく質問に答えることで text の構造を捉え、summarize することになる質問をできるだけ多くの生徒にし、Text の内容を把握できているか確認する。その際、focus を変え、態を変えた質問も加える。 DTT ⇒ 対話文の "I" "You"の Point of view(視点)を変えて text の adaptation 活動を行わせる。
◇Information-Gap Activity (Student⇔Student)	Pair で blank の異なる A、B 2 種類の fill-in passage それぞれを持ち、読みあう paired-activity を行う。生徒同士交代し相手がつまったら prompt を与えあう。	blank の異なる A、B 2 種類の fill-in passage を準備する。 机間巡視しながら、A、B を交換し各々、2 度 read aloud して着席するように促す。
◇Integrated Activity Writing-Speaking (Student⇔Student)	教科書を伏せ、Text の内容に関する質問（7W1H を意識したもの、更に発展的な内容も含む）を生徒に考えさせる。生徒同士が質問し、答える活動を行う。	机間巡視して、生徒の質問を添削する。生徒が考えた設問の originality をクラス全体にも幾つか紹介する。
◇Summarization / Retelling Activity (Teacher⇔Students)	paragraph 単位でスクリーン上に提示された key word と discourse marker を、その順番で用いて、その時間に学習した paragraph の summarization / retelling を行う。	Mapping、chart、graphic organizer 等を用いて、key word や discourse marker を Text 内容に従って黒板もしくはスクリーンに順次提示する。発表者がつまった場合には prompts を与える。
◇Assignment Summary Writing	"Write down the Summary of the lesson with about 80 words of 1 paragraph."	Lesson 全体の英文での Summary (80 words)と日本語要約(100 字)を宿題として課す。

5　Teacher-centered から Learning-centered へ

教室をコミュニケーションの舞台と捉え、生徒同士の activity を中心とする授業を実施する上で、教師が注意すべき点を挙げたい。活動内容の全てを生徒に任せると、ともすればその時点での彼らの興味・関心事に終わってしまいがちである。教材の精選、提示方法、活動の配列はあくまでも教師の役目であり、教師はより望ましい活動を生徒に促す工夫をする必要がある。従来の一方的な Teacher-centered から、コントロールされた Learning- centered への移行を図りたい。

6　Guided-Writing & Speech & Peer Evaluation

PC 教室で Speech Writing 活動を行った。生徒は１７８の Title 表から自由に個別の title を選び下図のフォーマットで作文し、原稿を PC 入力した後プリントアウトして提出する。添削された原稿のコピーを生徒全員に配布し、発表者は出来るだけ原稿を見ずに Speech を行う。他の生徒は Delivery、Pronunciation、Content、Organization、Interest の観点で評価し、さらに発表者への質問を３つ考えて尋ねる Interaction を行う。判断するポイントと重視する点を具体的に明示すれば、生徒相互評価も十分信頼性の高いものとなり、筆者による評価とかなり高い相関を示した。お互いの原稿を見て全生徒が評価するという点で、学習の場を共有しているという意識の涵養ともなった。可能な場合には ALT にも添削をお願いしたが、ALT は communicability の観点から accuracy より fluency を重要視する傾向が見られた。コミュニケーションの舞台としての教室での学習活動を如何に評価していくか、生徒の学習への動機づけとなる評価を工夫していきたい。

生徒 Speech 原稿例

Free Writing Sheet

Year____Class____No.____Name_____

1. **Choose your favorite topic:**
   Is Japan still a safe country?
2. **Put into more concrete:**
   Japan was safer in the past. Today young people have lost communication abilities.
3. **What is your purpose or intention?:**
   What should we do to make Japan a safer country.
4. **Think of topic phrases:**
   Night patrol Teacher, communication, consider ate of care about consideration relationship among familiy members
5. **List all the details you can think of:**
   (1)It is important to consider the other people
   (2)Some parents were killed by their sons or daughters.
   (3)Safety service is needed.
   (4)Murdering their parents ~~are~~ is horrible.
   (5)Many young people rely on cell phones too much.
   (6)Real communication is ~~limited~~ scarce.
   (7)Relationship among neighbors is limited.
   (8)Talking together and writing a letter is important.
   (9)In the past Japan was a safer country.
   ( )
6. **From 5 select and decicde the order of the details supporting the central idea:**
   9→2→4→8→6→7→5→1
7. **Make outline:**
   Today Japan has become a danger us country. So as/to live our own lives comfortably we should be consider the others and we need to have communication abilities.

Your Composition	Sp.	N.	Str	W.O	V.	Suggestion
In my opinion, Japan is not safe today. Because there are a lot of scary stories in the news now. The news changes everyday. But, almost all news is sad and bad news. Now, people are murdered by other people or attacked by other people every/day. For example ~~there is the~~ a girl ~~who~~ killed her parents, ~~the~~ boy ~~who~~	✓	✓	✓		✓	We come across... We encounter... ....on TV I'm shocked at.....
around nearby. It is not other's thing. It is possible that happen incident at own. So we have to defend own self. The only believeing that is myself. The important thing is ~~we have crisis and~~ to take care of ~~own self~~ ourselves. We have crisis and we need to take care of ~~own self~~ ourselves. We need to be consider our neighbor~~hood~~s and our family and belive each other. We shouldn't rely on cell-phone too much. I hope the time will come soon when Japan will be safe again.					✓	We might come across such a crime near by. A few things are unclear. Good job overall ☺

Sp. (Spelling) N. (Noun: determiner/article/plural[singular]/[un]countable) Str. (Structure) W.O. (Word Order) V. (Vocabulary)

The Evaluation to Mr./Ms.(　　)'s Performance

Delivery	5---4---3---2---1	Your questions and Comment: 1
Pronunciation	5---4---3---2---1	2
Content	20--18--16--14--12 10--8--6--4--2	3
Organization	10---8---6---4---2	Total /50　Comment
Interest	10---8---6---4---2	Year (　),Class(　),Number(　),Name(　　)

発表後、下の評価表部分に各自評価し、質問・コメントを加えて切り取り、発表者にフィードバックする。

[参考文献]
*Gillet and Temple, *Understanding Reading Problems*　2nd ed.(1986): 255